

平成 28 年度 県立平塚江南高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証について

県立平塚江南高等学校

県立平塚江南高等学校は、不祥事の発生をゼロにすることを目的として、次のとおり不祥事ゼロプログラムを策定し、検証を行った。

1 目標及び行動計画

全職員による事故不祥事防止会議を、職員会議に併せて行うとともに、朝の打合せなど様々な機会を通じて、事故・不祥事防止について職員全体が常に意識することで、事故・不祥事の根絶を目指した。また、管理職による職員面接を行い、一人ひとりの課題を明らかにし、一緒に解決を図ることで、組織全体で事故・不祥事防止を目指した。今年度は次に挙げた項目について特に重点的に取り組み、不祥事防止の徹底を図った。

(1) 法令遵守意識の向上（公務外非行の防止）

ア 目標

公務員として倫理意識の向上・徹底を図り、県民の信頼に応える。

イ 行動計画

- ・県の「職員行動指針」を周知徹底し、公務員としての倫理意識の徹底と共有化を推進する。
- ・職員啓発資料などを活用し、法令遵守意識の向上に努め、公務外非行の防止を徹底する。
- ・風通しの良い職場づくりを推進し、日常的に職員同士がお互いに気付いたことを気兼ねなく指摘し合うことができる環境をつくる。

【検証】

- ・県の「職員行動方針」を周知徹底し、「職員の事故・不祥事防止 3 か条」を励行した。
- ・教育長通知、新聞報道及び職員啓発資料を活用して、教育公務員としての倫理意識の徹底と法令順守意識の向上を図った。
- ・風通しの良い職場づくりのために、職員間のコミュニケーションを重視するとともに、複数チェック体制を確立した。
- ・参議院選挙に伴い、「選挙に向けた留意事項について」に基づき、政治的中立の保持並びに政治的行為のないよう周知、徹底を図った。

(2) わいせつ・セクハラ行為の防止

ア 目標

わいせつ行為による不祥事を根絶するとともに、セクハラ行為のない職場環境をつくる。

イ 行動計画

- ・職員啓発資料やヒヤリハット事例集などを活用し、全職員対象の研修会を実施する。
- ・人権について意識啓発を行うとともに、風通しの良い職場づくりを推進し、日常的に職員同士がお互いに気付いたことを気兼ねなく指摘し合うことができる環境をつくる。
- ・生徒や職員からの相談窓口を周知徹底し、被害者の人権を最優先に対応できる体制を確立する。

【検証】

- ・職員啓発資料等を活用し、わいせつ、セクハラ、パワハラ行為を未然に防ぐよう意識啓発と注意喚起を行った。
- ・様々な機会を通じて生徒や職員に対して、相談窓口の周知を徹底し、被害者の人権を最優先に対応できる体制を確立した。

(3) 体罰、不適切な指導の防止

ア 目標

生徒への体罰、不適切な指導を根絶する。

イ 行動計画

- ・体罰防止ガイドライン、職員啓発資料等を活用し、職員の意識の徹底を図るとともに、生徒の人権を尊重して指導に当たる。
- ・生徒の個人情報収集許可及び校外持ち出し許可手続きの徹底を図り、携帯電話、電子メール・SNS等の不適切な使用を防止する。
- ・生徒や職員からの相談窓口を周知徹底し、被害者の人権を最優先に対応できる体制を確立する。

【検証】

- ・体罰及び不適切な指導の防止に向け体罰防止ガイドライン、職員啓発資料等を活用し、意識啓発を行った。
- ・生徒の個人情報収集及び校外持ち出し許可手続きについて、改めて整理し、事前に関係書類等の提出を徹底させた。
- ・様々な機会を通じて生徒や職員に対して、相談窓口の周知を徹底し、被害者の人権を最優先に対応できる体制を確立した。

(4) 成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止

ア 目標

成績処理及び調査書発行等進路関係書類に係る事故を未然に防止する。

イ 行動計画

- ・採点業務・成績処理等の手順や点検体制について見直すとともに、マニュアルが適切に機能するよう整備する。
- ・確実な業務の実施に向けて、各段階において確認作業を複数で行うなどマニュアルで定められたチェックを徹底する。

【検証】

- ・調査書の発行、通知表、成績処理に係る事故の未然防止について意識啓発を行った。
- ・定期試験の実施、通知表の作成、成績処理等については、教務グループを中心に、複数による点検体制を確立し、円滑に遂行した。
- ・調査書、推薦書の発行については、進路指導グループと当該学年が連携して取組み、点検体制を確立し、事故防止に努めた。特に、調査書の作成においては、早い段階から計画的に取り組むなど工夫を図った。
- ・次年度に向けて、より一層円滑かつ確実に実行できるよう検証を行い、改善を図った。

(5) 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策

ア 目標

個人情報等管理を徹底し、個人情報の漏洩や不正利用、紛失や誤廃棄などの事案の未然防止に努める。

イ 行動計画

- ・情報セキュリティ対策に則り、個人情報等の管理を徹底する。
- ・学校管理のUSBメモリ等記録媒体の管理体制について再点検を行うとともに、適正な取り扱いについて徹底を図る。
- ・携帯電話、電子メール・SNS等の不適切な使用を防ぐため、職員全体の研修を行い、生徒の個人情報収集許可及び校外持ち出し許可手続きの徹底を図る。

【検証】

- ・個人情報の適切な管理、USBメモリ等の記録媒体の管理ともに、様々な機会を通じて適正な扱いについて徹底を図った。
- ・電子メールやSNSに係る不適切な使用を防ぐ具体的な手立てを講じるとともに、職員全体で共通理解を図った。
- ・USBメモリの管理については、今年度、改善を図ったことで、事故防止につなげた。

(6) 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守**ア 目標**

公務員及び教育公務員としての意識を高め、交通事故・法規違反を未然に防止する。

イ 行動計画

- ・職員啓発資料などを活用し、全職員を対象とした事故防止会議を行う。
- ・飲酒機会の増える時機を捉え、職員全体に注意喚起を行い、飲酒運転・交通法規の遵守の徹底を図る。

【検証】

- ・交通安全・交通法規の遵守について、時機をとらえて、職員啓発資料、教育長通知及び新聞記事などを活用して注意喚起に努めた。

(7) 会計事務等の適正執行**ア 目標**

公費、私費ともに、会計処理上の事故・不祥事を未然に防止する。

イ 行動計画

- ・私費会計基準の遵守に向けて、全職員対象の研修会を実施する。
- ・会計伝票や会計報告の作成・起案にあたり複数の目でチェックを行うなど、適正な会計処理に努める。

【検証】

- ・会計処理、特に私費会計、現金の取扱いについて、複数チェック体制を徹底させ、迅速で適正な会計処理を行った。
- ・私費会計基準の遵守に向けて、全職員対象の研修会を実施できなかったが、職員啓発資料やマニュアルなどを配付し、会計処理や現金の取扱いについて理解の徹底を図った。

(8) 入学者選抜に係る事故防止**ア 目標**

入学者選抜に係る事故の発生を未然に防止する。

イ 行動計画

- ・入学者選抜業務全般、学力検査・面接における実施及び採点等において、複数職員によるチェックを含む点検体制を再確認し、実施時の徹底を図る。
- ・平成29年1月に校内研修を実施し、事故・不祥事防止の徹底を図る。

【検証】

- ・新しいシステムに対応できるよう、職員にわかりやすいマニュアルの作成と、実施に向けてその徹底を図った。
- ・入学者選抜委員会で何度もシミュレーションを実施し、複数職員によるチェック体制を確立し、事故防止に努めた。

2 上記の活動に対する校長の意見

事故・不祥事防止に関しては、未然に防ぐという観点から、各業務開始前に説明を尽くし、「職員点検啓発資料」などを活用し、注意喚起を行ってきた。しかし、職員の業務の多様化と量の増加に伴い事故が起こる可能性が完全に否定できるとは言えないという危機感を持っている。そこで、校内の様々な業務について、進行管理を徹底させ、職員が余裕をもって行動することが求められる。

こうしたことを踏まえ、職員相互の日ごろの業務内容のチェック体制を確立し、事故の未然防止へ組織的な一層の取組みが重要であるとする。また、日常のコミュニケーションを通じて、風通しの良い職場づくりを目指し、公務外も含め、教育公務員として倫理意識の徹底を図る必要がある。

3 次学年における取組予定

事故・不祥事については自らのこととして捉え、同僚への関心を持ちながら防止に向けての取組を目指してきており、本年度は、個々の職員が事故・不祥事防止を自分の問題として意識し、行動できるようできるだけ身近な課題をテーマとして、個人情報取り扱いを中心に取り組んできた。とりわけ入学者選抜業務においては、二度と事故は起こさないといった強い意識を持って取り組んだところである。

事故・不祥事の防止については、日ごろの取組みが鍵を握っていると考えており、次年度は、例えば、事故・不祥事の項目ごとに重点期間を設定するなど工夫しながら、日常の中で職員一人ひとりが意識して取り組めるよう粘り強く継続して取り組んでいきたいと考える。

4 その他

特になし。